

## **4. 職業実践専門課程認定学科を持つ ファッション系専門学校に対する 実態調査報告書**

---

---

### アンケート実施について

- 実施時期 : 平成 26 年 12 月 3 日～平成 27 年 12 月 16 日
- 実施対象 : 国内ファッション系専門学校 100 校
- 実施内容 : 職業実践専門課程への申請状況や企業連携授業に関する意識調査。また教員研修内容や自己評価項目についての取組と現状の把握。
- 実施目的 : 職業実践専門課程申請状況の把握、連携授業等の意識調査を通じて、同課程のファッション分野における課題を把握し第三者評価案構築への資料とする。
- 回答数 : 48 校
- 回答率 : 48%

## 集計結果報告

### 〈職業実践専門課程への申請状況〉

平成 27 年 2 月 17 日の文部科学省の告示によりファッション分野における認定校は約 25 校となった。「今後申請予定」と約 3 割が回答したことから、次年度以降に約 15 校の申請が見込まれる。申請予定校も含め、ファッション分野における認定校は今後 40 校程度で推移すると推測され、他分野よりも少ない学校数である。なおメイク、エステ、ブライダル等の学科で約 20 校が認定を受けており、広義のファッション分野の認定校は約 60 校になると予想される。

### 〈実態と申請要件の乖離とその理由〉

職業実践専門課程申請要件の中で、ファッション分野の実態と合わないと感じた要素を指摘する学校は少数であった。連携授業には講義形式も必要という前向きな意見がある一方、地方の小規模校等において、特定の企業との限定的な連携となることを危惧する意見があった。

### 〈連携授業の学生の反応〉

およそ 3/4 が「好評」「どちらかと言えば好評」と回答。連携授業を肯定的に捉えていることがわかった。学校を対象とした調査であり、授業アンケート、聞き取り等の結果を反映させていると推測される。

### 〈連携授業が学生に好評な理由〉

「連携企業の魅力」が約 7 割であった。次いで「連携企業講師の魅力」「連携企業施設、設備を利用する魅力」がそれぞれ 5 割弱、4 割弱となった。今回通常授業に対する満足度は調査していないが、約 7 割の学生が魅力を感じる「連携授業」を実施している認定校は、すなわち魅力ある学校であることが裏付けられた。なお「不評」な理由について、企業側に不備が多いとの回答が 1 件あった。

### 〈連携企業の反応〉

学生と同様の結果となった。およそ 3/4 が「好評」「どちらかと言えば好評」と回答し、「不評」「どちらかと言えば不評」という回答は 0 であった。学校教育に好意的な企業を選び連携しているとも考えられるが、次項のような理由から、産学の連携に意義を感じている企業が多いことがわかった。

#### 〈連携授業が企業に好評な理由〉

「学校との関係が密接になる」が8割強で最も高い。次いで「学生の意欲が高い」「学生の採用」が同率で5割強となった。求人において即戦力を求める企業が多いことから、厳しい結果を予想したが、学生の意欲を評価した企業が半数を超えた。景気回復による好影響も考えられるが、連携授業による学生採用を意識する企業が半数以上に上ることが注目される。

制度発足初年度において、学生・企業双方から評価の得ている連携授業は、今後教育課程編成委員会において更なる改善が期待できる。このような結果から、認定要件が十分に機能していることが裏付けられた。

#### 〈教員研修の内容〉

「指導力分野」「実務分野」双方の研修を実施している学校が9割弱と大半を占めた。

教員研修の実施は認定要件であるが、最低限の研修でなく、多岐にわたる研修を実施している実態がわかった。

#### 〈実務分野の研修内容〉

「技術教育」「業界の動向」が上位に挙げられた。デザイン教育に関するものが（その他を除き）最下位となり、学生指導と同様に、デザインという抽象的な要素についての研修が難しいことが窺える。

「業界の動向」が上位となった理由として、ファッション関連団体等が主催する業界セミナーなどを積極的に研修として活用していると推測される。

#### 〈実務分野の研修効果〉

「効果があった」「どちらかと言えば効果があった」という回答が9割強であるが、約4割は、「どちらかと言えば効果があった」と回答し、効果についてやや懐疑的な様子が窺えた。多くの学校が、多忙な業務、限られたコストの中で研修を実施している現状から、一部、認定要件クリアのための研修が行われていると推察される。

#### 〈今後充実させたい研修〉

「業界の動向」「ビジネス」が上位に挙げられた。実績では1位（87%）であった「技術教育」は6位（44%）となった。一方、「業界の動向」「ビジネス」は実績項目でも上位であり、認定校が企業（業界）との結びつきを重視していることがわかった。この結果は、次年度以降の研修プログラム作成の際、反映させたい。

#### 〈ファッション分野に特化した評価項目の設定〉

独自評価項目を設定した学校は2割弱と少数であったが、特定非営利活動法人私立専門学校等評価機構等の評価案に準拠しつつ、評価項目を部分的に充実させている回答があった。例えば「検定」について合格率の推移の項目を設けたり、「就職」についてファッション分野限定の統計を設けるなど、専門学校の強みとされる領域において敢えて厳しく評価しようとする姿勢が窺えた。

#### 〈第三者評価項目および自己評価項目の導入〉

今後取り入れていきたい評価項目についても2割弱が「ある」と答え、前項の質問と同様、「検定」「就職」について導入したいという回答があった。ここでも専門学校の強みを明確にして、大学との差別化を図りたいという意図が窺えた。

また、グローバル教育の実践を挙げた学校が1校あった。

#### 〈職業実践専門課程認定のPRの有無〉

8割強の学校が積極的なPRを行っているが、反面1割弱の学校がPRを行っていないかった。3割の学校が入学案内書でPRしていない点について、制度発足年度は認定結果が3月に判明し、入学案内書に記載が間に合わなかった学校もあると推察される。

#### 〈PRしている点〉

「企業との連携授業」が9割強と圧倒的であった。学生にとって最も身近なメリットである連携授業について重点的にPRしていることがわかった。

HP、入学案内いずれも視覚的効果が重視される媒体であることから、絵になりやすい連携授業を重点的に取りあげる傾向が窺えた。



# 『職業実践専門課程に関する実態調査』報告書

2015年2月25日

株式会社ネオマーケティング

東京都渋谷区南平台町16-25 養命酒ビル

TEL : 03-6328-2881



# 目次

1. 調査概要	2P
2. 調査対象校一覧	3～4P
3. 調査結果要約	5～6P
4. 調査結果詳細	7P
学科の申請状況	8P
実態と申請要件の乖離とその理由	9P
連携授業の学生の反応	10P
連携授業が学生に好評な理由	11P
連携授業が学生に不評な理由	12P
連携企業の反応	13P
連携授業が企業に好評な理由	14P
教員研修の内容	15P
実務分野の研修内容	16P
実務分野の研修効果	17P
今後充実させたい研修	18P
ファシジョン分野に特化した評価項目の設定とその項目	19P
第三者評価項目および自己評価項目の導入とその項目	20P
職業実践専門課程認定のPRの有無	21P
PRしている点	22P

# 1. 調査概要

## 調査目的

- ①フアッション分野における第三者による学校に対しての評価基準の発信
- ②教育研修モデルプログラムの構築、発信
- ③フアッション分野における職業実践的な教育課程のための体制構築
- ④職業実践専門課程への認知・理解の推進
- ⑤職業実践専門課程認定学科を持つフアッション系専門学校に対する実態の把握

## 調査課題

フアッション分野は国家資格が存在しないため、第三者評価基準が確立しておらず、一定の水準を維持する指標が存在しない。そのため、職業実践専門課程において、企業が何をもちて学校を評価するのか基準を確立し、質の担保につなげていきたい。

フアッション教育の分野では、地域の特性や学校の規模から、教員研修の内容に格差が生まれ、特に専門の研修内容において水準の確保にばらつきが出ていることが問題として存在している。そのため、一定水準の質を保証する教育研修プログラムを確立することで、職業実践専門課程の認定を得ていない専門学校との差別化を図りたい。

## 調査対象校とサンプル数

■ 調査手法	郵送調査
■ 郵送総数	100校
■ 協力率	48%

## 調査会社

社名 株式会社ネオマーケティング  
URL <http://www.neo-m.jp/>  
所在地 〒150-0036 東京都渋谷区南平台町16-25 養命酒ビル  
TEL 03-6328-2881 / FAX 03-3770-1808

## 2. 調査対象校一覧

## 2. 調査対象校一覧

北海道文化服装専門学校  
 北海道ドレスメーカー学院  
 ファッションドレスメーカー専門学校  
 青森中央文化専門学校  
 サンモードスクールのブデザイン  
 宮城文化服装専門学校  
 ドレメファッション芸術専門学校  
 仙台青葉服飾福祉専門学校  
 TOKIファッション工科専門学校  
 山形女子専門学校  
 パリス文化服装専門学校  
 専門学校山形V. カレッジ  
 今泉女子専門学校  
 国際ビューティー・ファッション専門学校  
 細谷高等専修学校  
 足利デザイン・ビューティー専門学校  
 専門学校足利コミュニケーションカレッジ  
 国際ファッションビューティー専門学校  
 前橋文化服装専門学校  
 国際ファッションアート専門学校  
 川口文化服装専門学校  
 専門学校中千代ファッションカレッジ  
 織田ファッション専門学校  
 東京モード学園  
 東京文化ブライダル専門学校  
 東京服装文化学院  
 日白ファッション&アートカレッジ  
 専門学校ファッションカレッジ桜丘  
 華服飾専門学校  
 二葉ファッションアカデミー  
 専門学校武蔵野ファッションカレッジ  
 東京家政専門学校  
 ドレスメーカー学院  
 専門学校青山ファッションカレッジ

東京ファッション専門学校  
 東京服飾専門学校  
 横浜カレッジ  
 横浜ファッションデザイン専門学校  
 横浜デザイン学院  
 国際トータルファッション専門学校  
 富山ファッションカレッジ  
 安川専門学校ロイモード学院  
 富山デザイン・ビューティー専門学校  
 専門学校金沢文化服装学院  
 専門学校福井文化服装学院  
 福井デザイン専門学校  
 甲府ドレメ学院  
 OKA学園トータルデザインアカデミー  
 松本衣デザイン専門学校  
 大垣文化総合専門学校  
 飯原服装専門学校  
 静岡デザイン専門学校  
 東海文化専門学校  
 静岡服飾美容専門学校  
 明美文化服装専門学校  
 名古屋モード学園  
 名古屋ファッション・ビューティー専門学校  
 名古屋ファッション専門学校  
 愛知文化服装専門学校  
 高桑服装専門学校  
 専門学校慈恵きものファッションカレッジ  
 中部ファッション専門学校  
 豊橋ファッション・ビジネス専門学校  
 ティーズファッション専門学校  
 阪神家政高等専修学校  
 大阪ファッションデザイン専門学校  
 東洋Fデザイン専門学校  
 マロニエファッションデザイン専門学校

大阪文化服装学院  
 大阪モード学園  
 大阪ファッションアート専門学校  
 上田女子服飾専門学校  
 専門学校神戸文化服装学院  
 神戸ファッション専門学校  
 加古川ファッションカレッジ  
 専門学校米子女学院  
 米子文化服装専門学校  
 専門学校岡山ファッションスクール  
 中国デザイン専門学校  
 専門学校倉敷ファッションカレッジ  
 小井手ファッションビューティー専門学校  
 石田あさきトータルファッション専門学校  
 広島ファッション専門学校  
 専門学校ファッションビジネス・アカデミー福山  
 下関文化産業専門学校  
 吉田愛服飾専門学校  
 松山女学院専門学校  
 高知文化服装専門学校  
 香蘭ファッションデザイン専門学校  
 福岡大村美容ファッション専門学校  
 緑ドレスメーカー服飾専門学校  
 ヒロ・デザイン専門学校  
 和洋学園専門学校  
 専門学校田北文化服装学院  
 野村服飾専門学校  
 専門学校沖縄ブライダル・モード学園  
 萬田ドレスメーカー専門学校  
 沖縄ファッションアート学院  
 伊舎堂沖縄ファッション学院  
 専修学校インターナショナルデザインアカデミー

### 3. 調查結果要約

### 3. 調査結果要約

#### ■ 申請状況 (P6)

申請用件を満たす学科の申請状況は、「認可済又は申請中」と「今後申請予定」の合計が69%となった。

#### ■ 連携授業の評価 (P10~P14)

代表的連携授業については、学生・企業ともに好評。学生に好評な理由は「連携企業の魅力」、企業に好評な理由は「学校との関係が密接になる」。

#### ■ 教員研修について (P15)

実施した教員研修は「実務分野」「指導力分野」の両方を行うことが多い。  
実務研修のみを行ったという回答はなかった。

#### ■ 独自評価項目の設定 (P19)

独自のフアッション分野に特化した評価項目を設定を行う学校は少ない。設定をする場合は資格・検定の試験を利用されている。

#### ■ PRの実施状況 (P21)

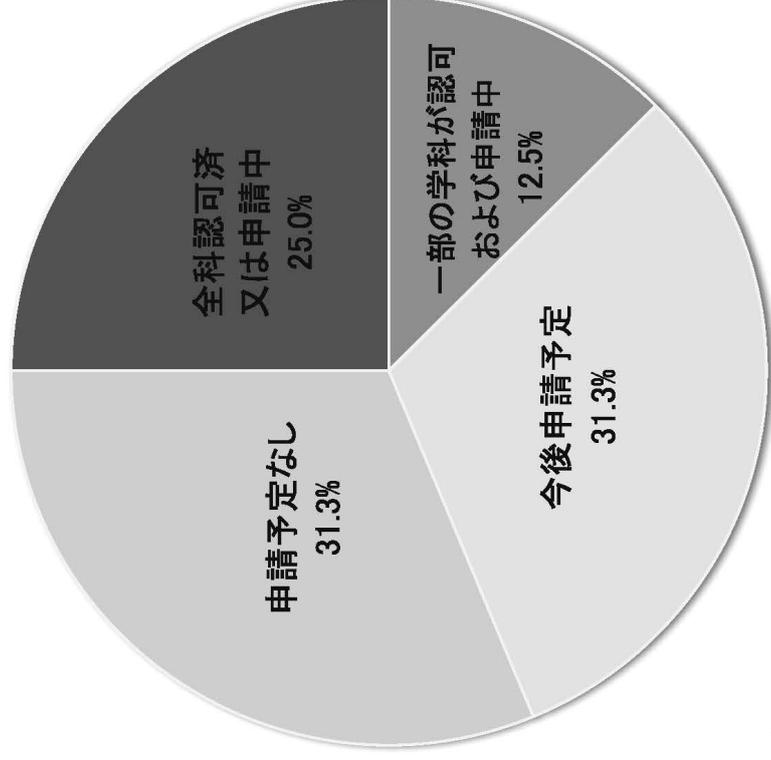
HPもしくは入学案内でPRしている学校が83%。PRをしていない学校は6%。

## 4. 調査結果詳細

## 学科の申請状況

- 申請要件を満たす学科の申請状況は、「全科認可済又は申請中」が25.0%、「一部の学科が認可および申請中」12.5%と、4割弱が申請中となっている。
- 一方で、「申請予定なし」は31.3%となっている。

問1.申請要件を満たしている(またはほぼ満たしている)、学科の申請状況について伺います。(お答えはひとつ)

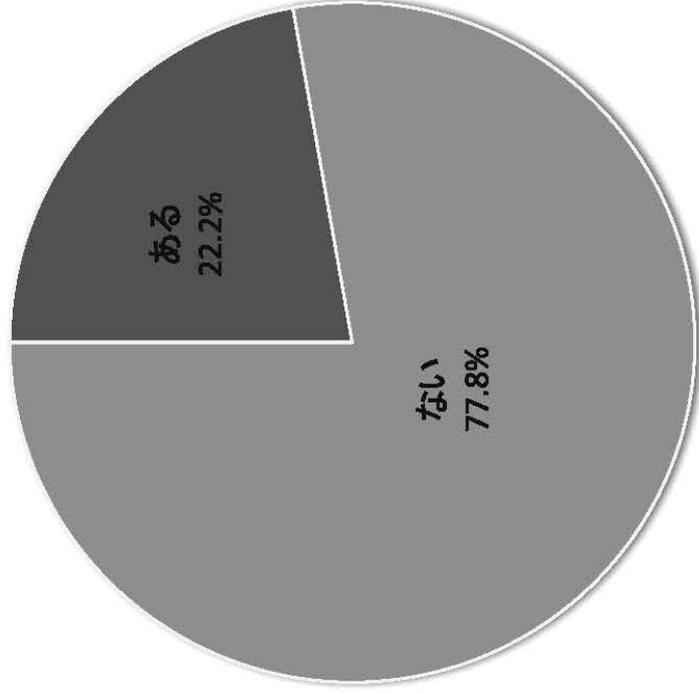


(回答数=48)

# 実態と申請要件の乖離とその理由

- 申請要件の中で、フアッション分野の実態と合わないと感じる要素は、「ある」が22.2%。

問3.申請要件の中で、フアッション分野の実態と合わないと感じた要素はありますか。(お答えはひとつ)



(回答数=18)

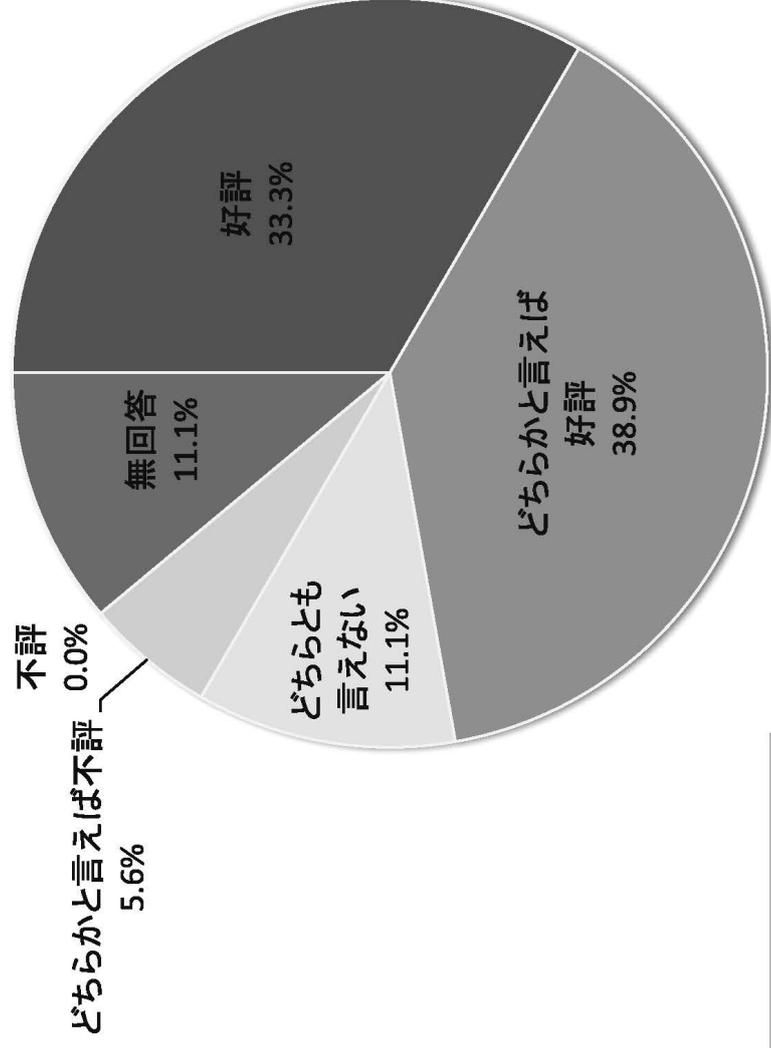
## 問4.【フアッション分野の実態と合わないと感じた要素】

- 本来の実践であるか、否かが難しいと考えられる
- 企業と連携を求められる授業が実習または演習に限られる点、高度化・複雑化する産業動向の把握のためには、業界人講師による講義型の授業も必要と考えるため
- 地方の小規模校の場合、企業との連携した実習を実施する際、非常に限定的なものになってしまうのではないかと人ごとながら感じました
- 特定の企業としか連携をしていない様に思われる (HP等で掲載が義務付けられている為) 本来のフアッションは幅広く知識を習得することや、固定概念にとらわれない教育が必要
- 発想力を育てる教育は特定の企業の色に染まらない教育が必要であると感じる

## 連携授業の学生の反応

- 代表的連携授業の学生の反応は、「好評」(33.3%)と「どちらかと言えば好評」(38.9%)を足した「好評」の割合は72.2%と概ね好評であった。

問6. 貴校の代表的連携授業の学生の反応をお答えください。(お答えは1つ)

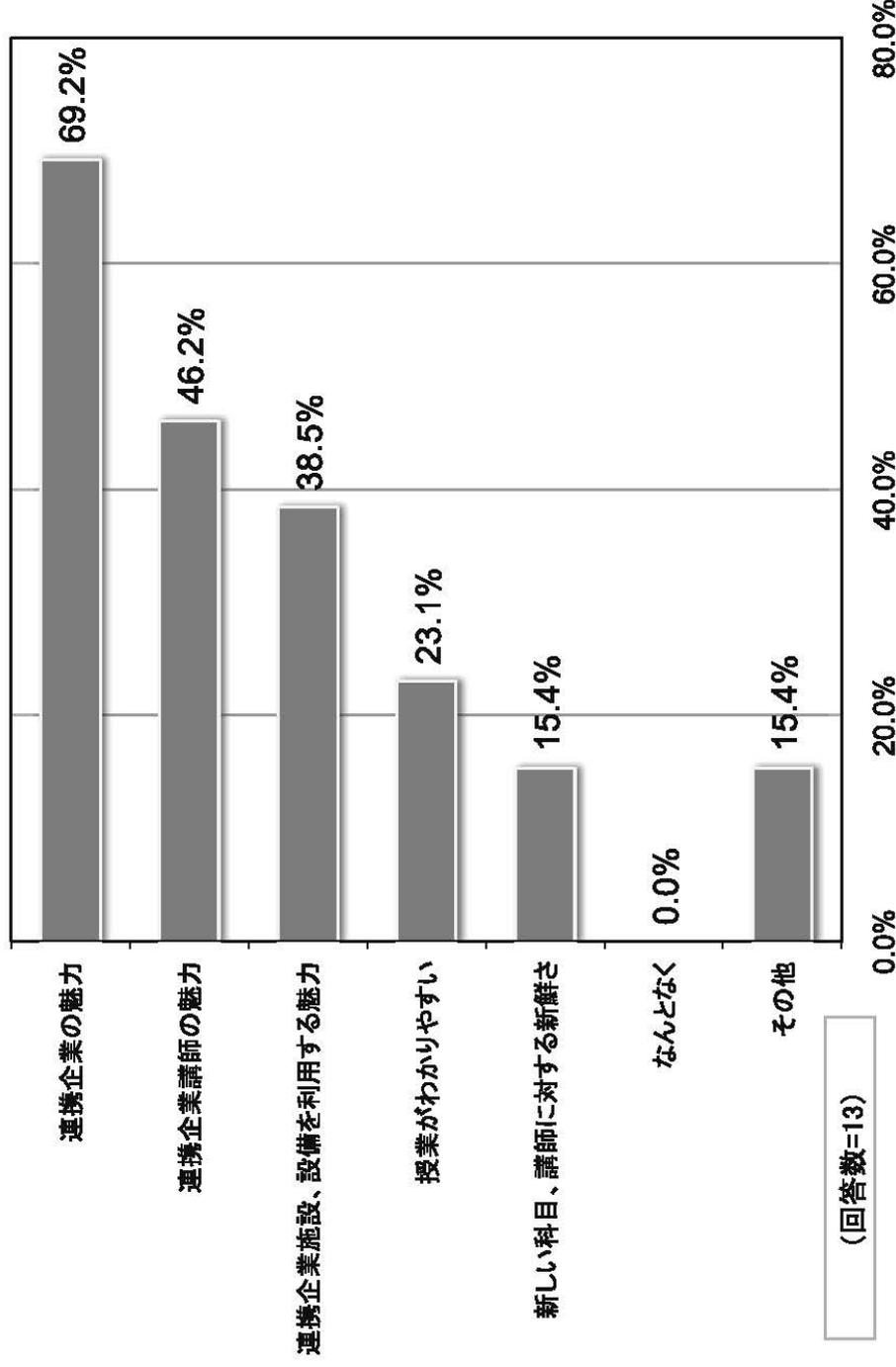


(回答数=18)

# 連携授業が学生に好評な理由

- 代表的連携授業が好評な理由として「連携企業の魅力」が69.2%で最も高い。ついで「連携企業講師の魅力」(46.2%)、「連携企業施設、設備を利用する魅力」(38.5%)となった。

問7.問6で【好評・どちらかと言えば好評】に○をつけた方がお答えください。  
「好評」または「どちらかと言えば好評」の理由は主にどのようなことかお答えください。(お答えはいくつでも)



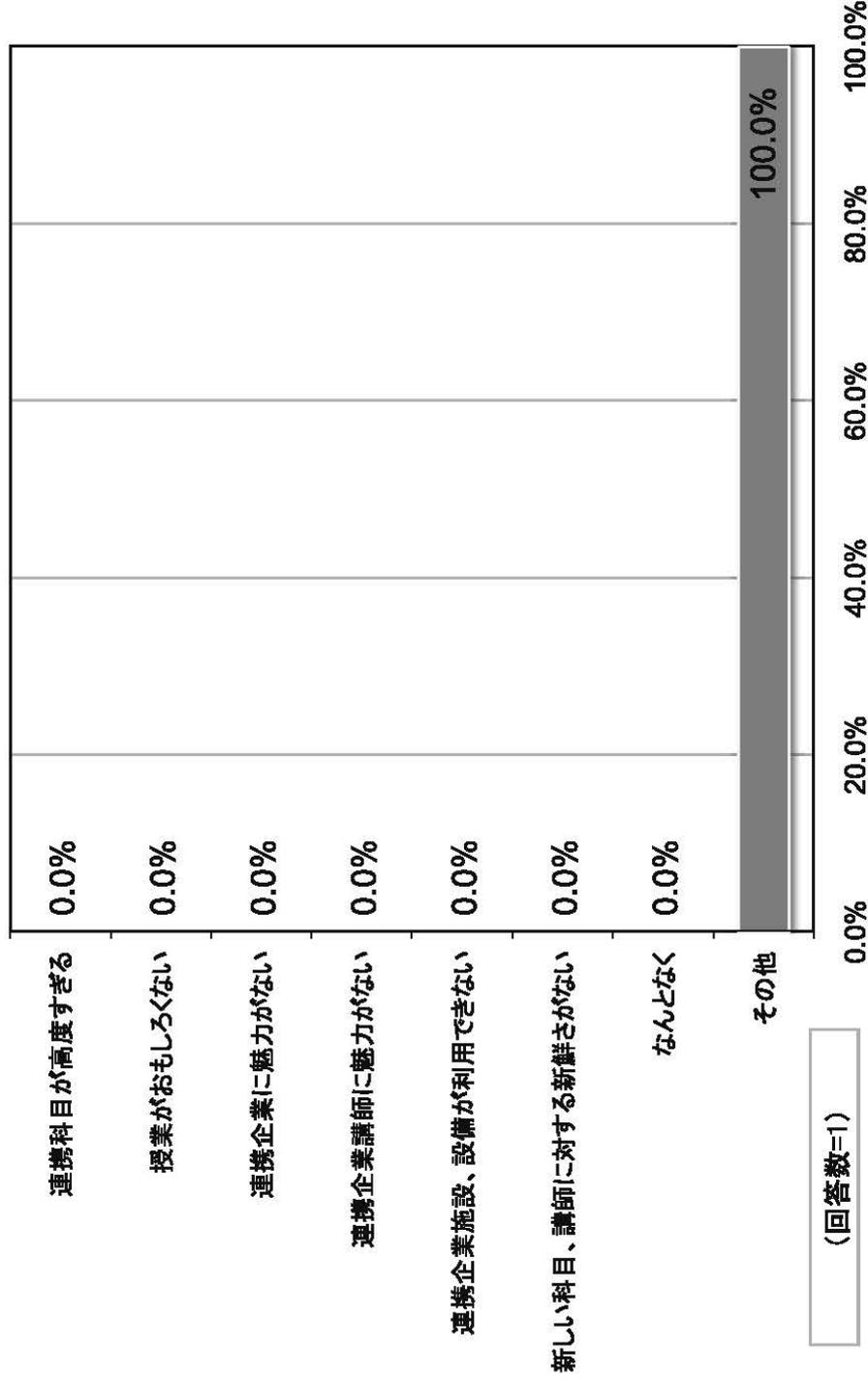
## 【その他の回答】

- 店長指導の元、実践的な販売実習を体験
- 実践に即している
- 企業入社後に役立つ

# 連携授業が学生に不評な理由

- 不評の理由として、「企業側の不備が多いことへの不満」という意見があった。

問8.問6で【どちらかと言えば不評、不評】に○をつけた方がお答えください。  
 「どちらかと言えば不評」または「不評」の理由は主にどのようなことかお答えください。(お答えはいくつでも)



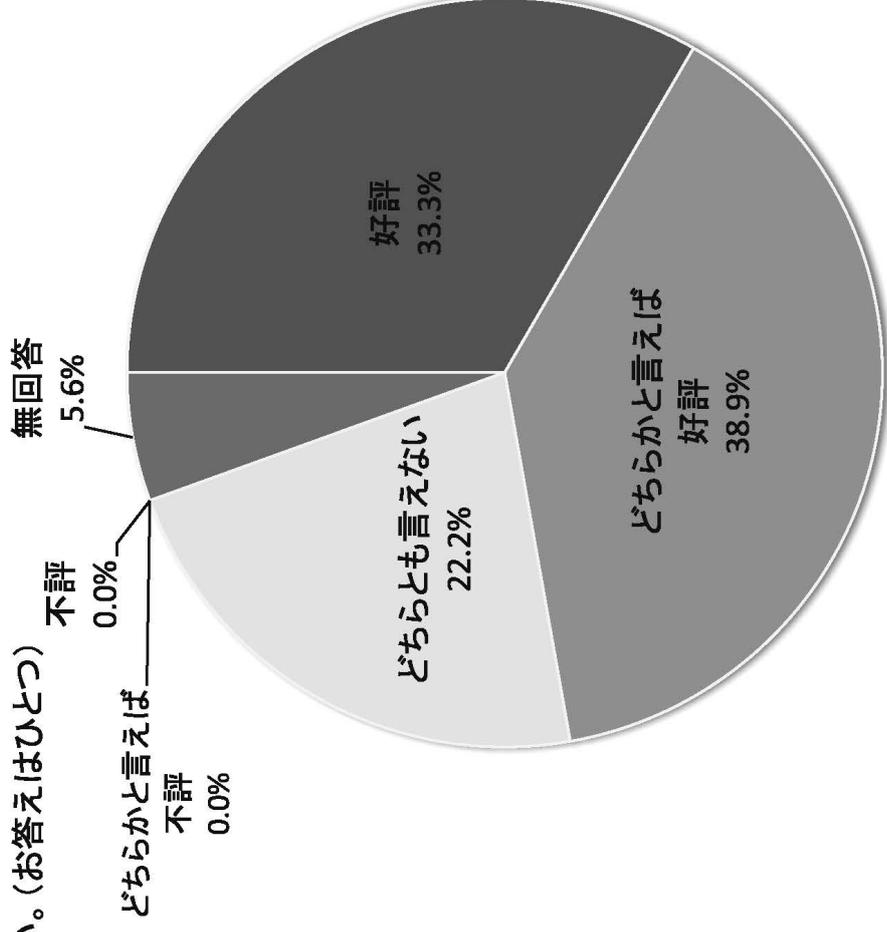
## 【その他の回答】

- 企業側の不備が多いことへの不満

# 連携企業の反応

- 連携企業の反応は、「好評」(33.3%)と「どちらかと言えば好評」(38.9%)を足した「好評」の割合は72.2%と概ね好評であった。

問9.連携企業の反応をお答えください。(お答えはひとつ)

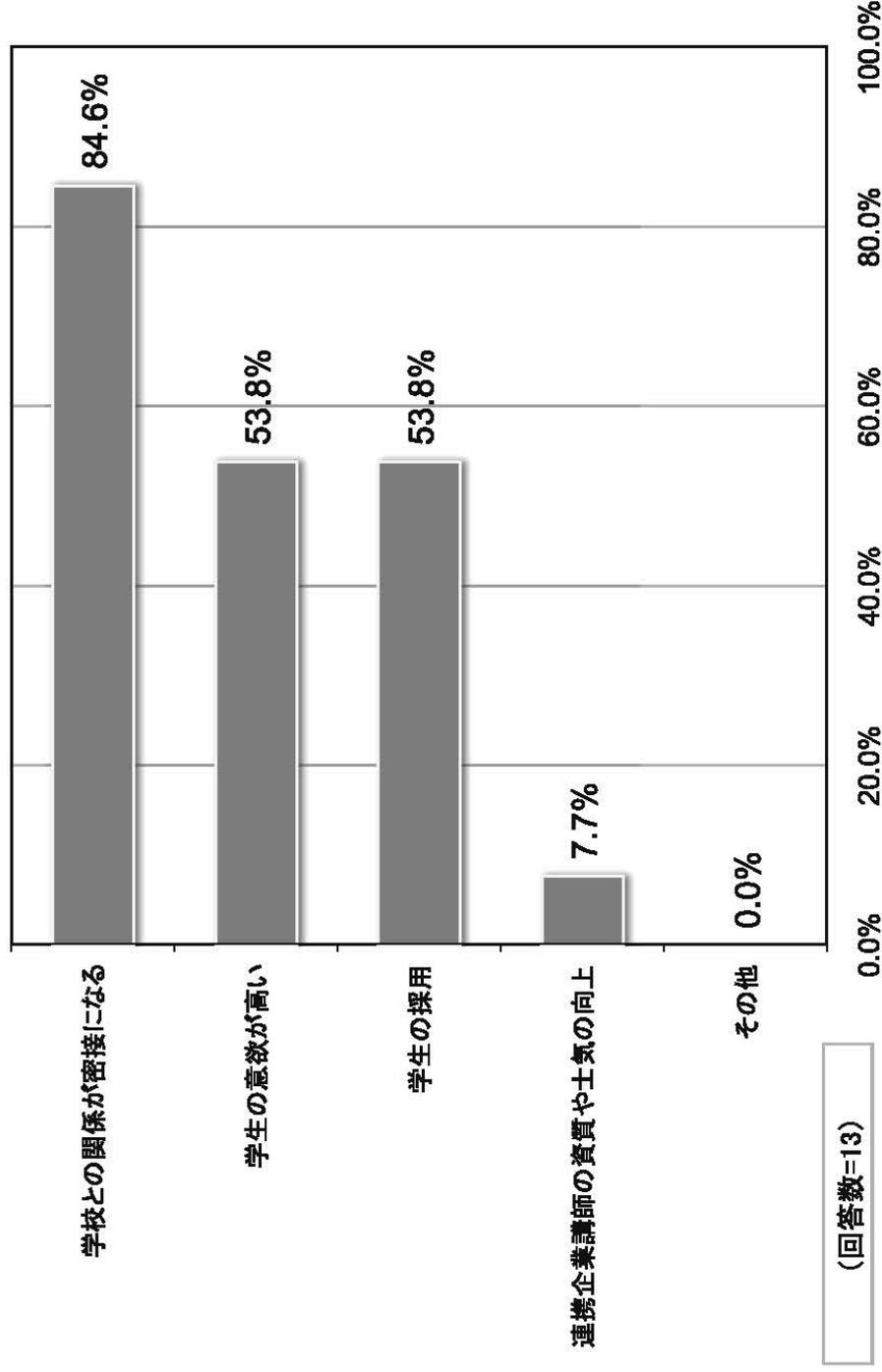


(回答数=18)

## 連携授業が企業に好評な理由

- 代表的連携授業が企業に好評な理由として「学校との関係が密接になる」が84.6%で最も高い。ついで「学生の意欲が高い」「学生の採用」(ともに53.8%)となった。

問10.問9で【好評・どちらかと言えば好評】に○をつけた方がお答えください。  
「好評」または「どちらかと言えば好評」の理由は主にどのようなことかお答えください。(お答えはいつでも)

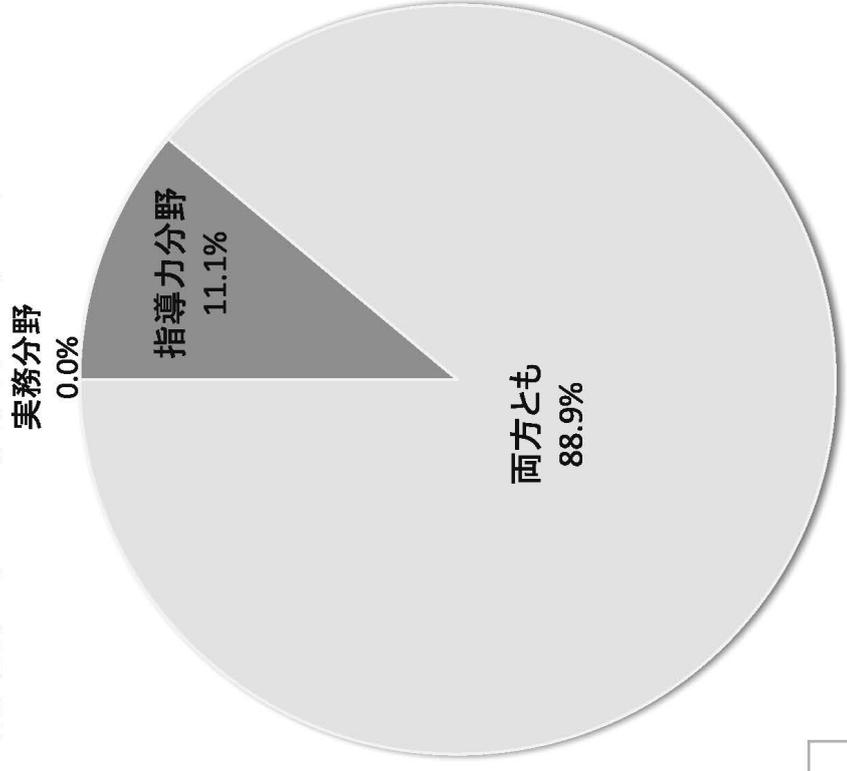


## 教員研修の内容

- 実施した教員研修は「両方とも」が88.9%。「指導力分野」は11.1%で、「実務分野」は回答がなかった。

問12.申請要件である、教員研修について伺います。

実務分野と指導力分野の資質向上のうち、どちらの研修を行いましたか。(お答えはひとつ)

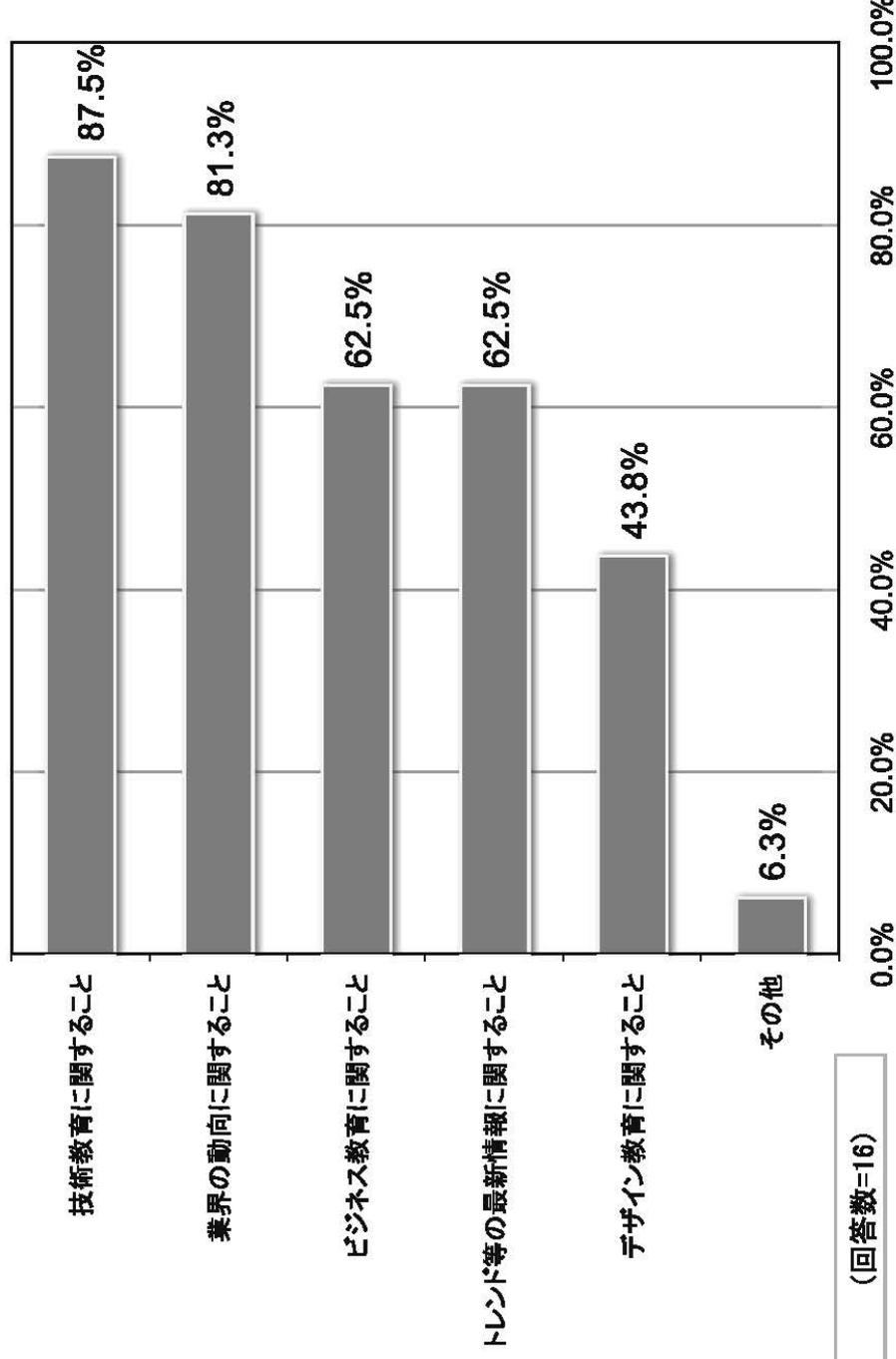


(回答数=18)

## 実務分野の研修内容

- 実施した実務分野の研修内容は「技術教育に関すること」が87.5%でトップ。ついで「業界の動向に関すること」(81.3%)、「ビジネス教育に関すること」(62.5%)となった。

問13.問12で【実務分野】【両方とも】に○をつけた方がお答えください。  
実務分野の研修内容は次のうちのどちらのようなものでしたか。(お答えはいくつでも)



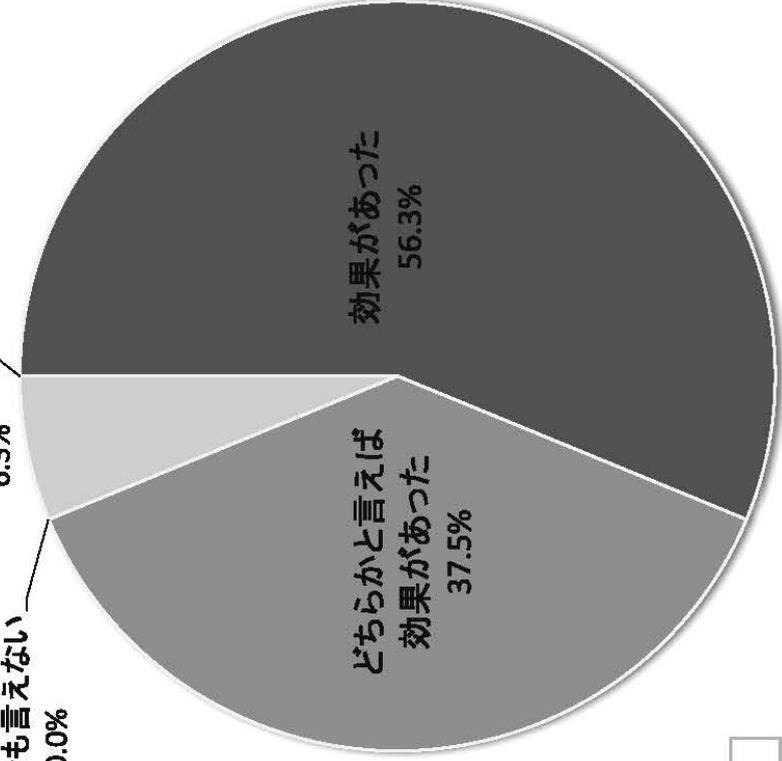
# 実務分野の研修効果

- 実務分野の研修効果は、「効果があった」(56.3%)と「どちらかと言えば効果があった」(37.5%)を足した「効果があった」の割合は93.8%と、効果を実感している割合が圧倒的に多い。

問14.問12で【実務分野】【両方とも】に○をつけた方がお答えください。

実務分野の研修効果はいかがでしたか。(お答えはひとつ)

どちらとも言えない 0.0%  
どちらかと言えば効果があった 6.3%  
全く効果がなかった 0.0%



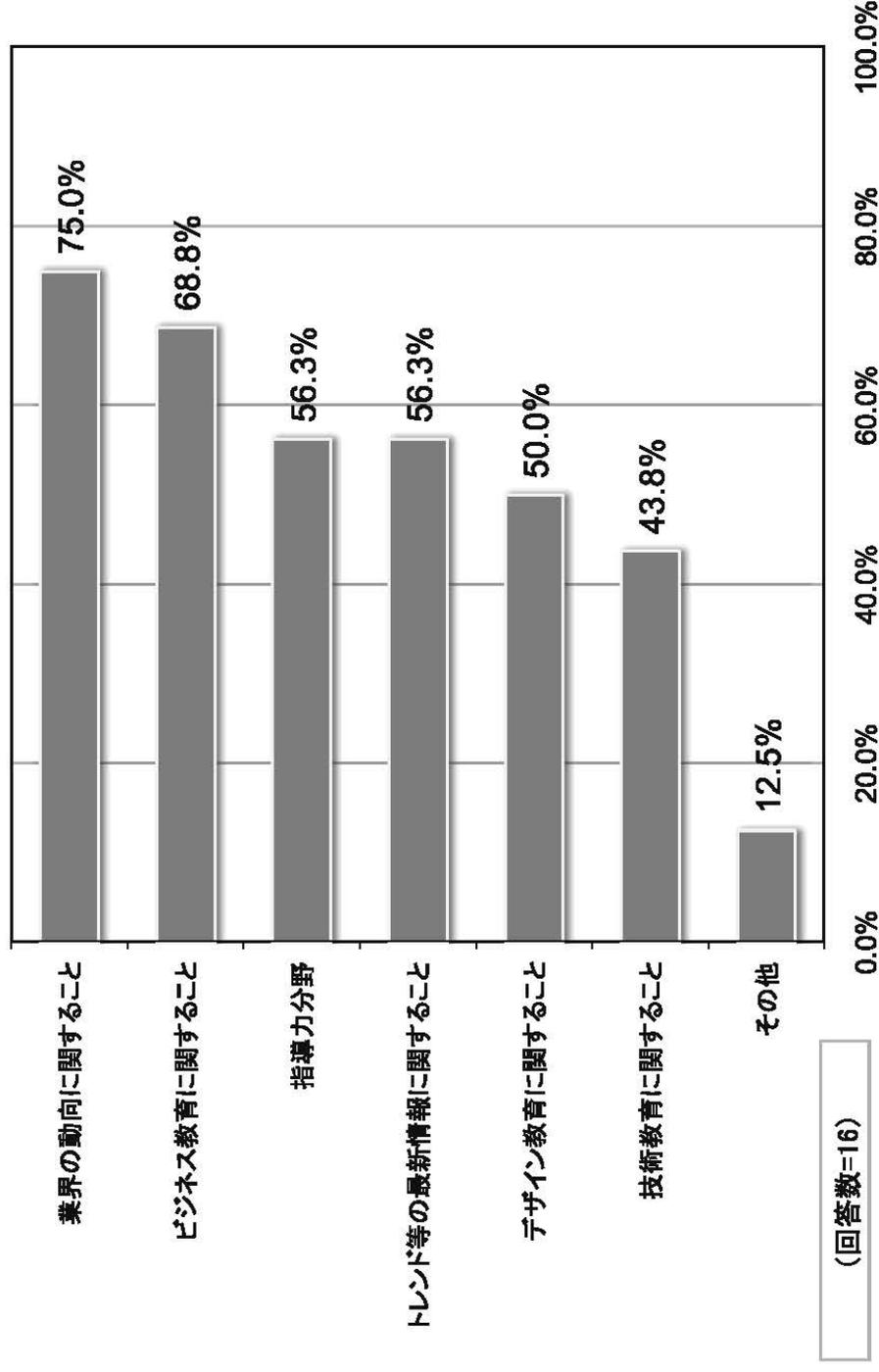
(回答数=16)

# 今後充実させたい研修

- 指導力分野を含めて今後、充実させたい研修は「業界の動向に関すること」が75.0%でトップ。ついで「ビジネス教育に関すること」(68.8%)、「指導力分野」、「トレンド等の最新情報に関すること」(ともに56.3%)となった。

問15.問12で【実務分野】【両方とも】に○をつけた方がお答えください。

指導力分野も含め今後どのような研修を充実させたいとお考えですか。(お答えいくつでも)

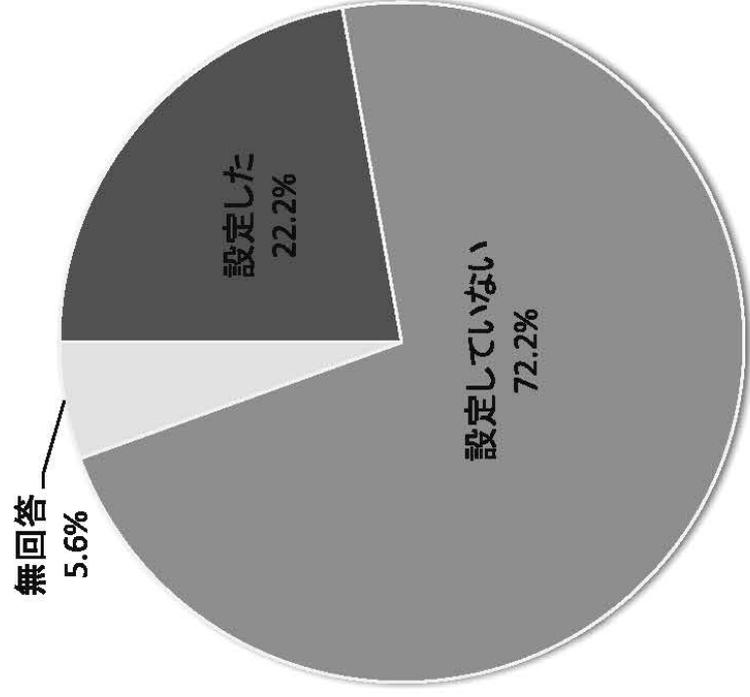


# ファッション分野に特化した評価項目の設定

- 独自のファッション分野に特化した評価項目の設定については、「設定していない」が72.2%と圧倒的に多い。

問16. 申請要件である学校関係者評価について伺います。

学校関係者評価実施のための自己評価において貴校独自の、ファッション分野に特化した評価項目を設定しましたか。(お答えはひとつ)



(回答数=18)

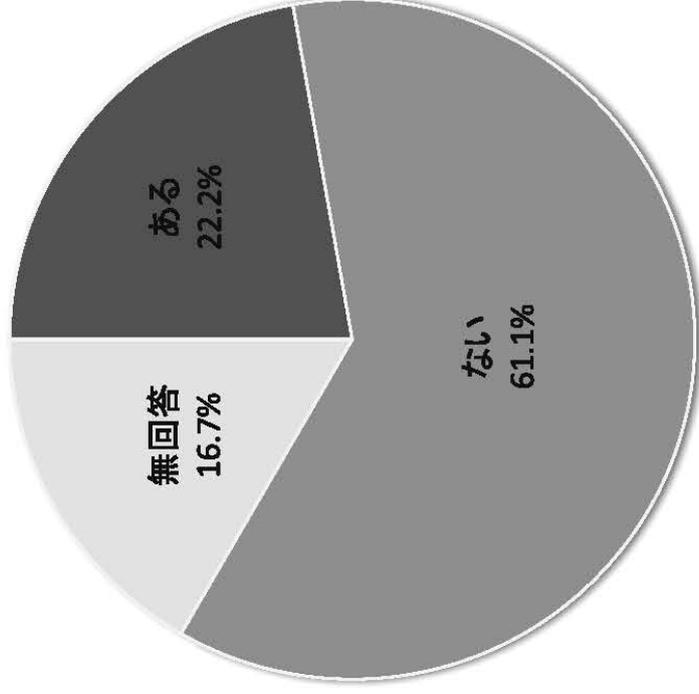
## 問17.【設定した評価項目】

- 資格取得者数
- 資格取得率とその推移を設定
- 卒業時における就職率を設定
- ファッション分野関連の資格取得率を設定
- 教育の資格取得率の設定(パターンメンメーキング能力検定、ファッションビジネス能力検定、全国洋和裁学校検定試験、ファッションデザインコンクール&ファッションショー)
- 就職率を設定(ファッション分野)
- 検定試験合格率を設定  
(パターンメンメーキング能力検定、ファッション色彩能力検定、ファッション販売能力検定、ファッションビジネス能力検定)

# 第三者評価項目および自己評価項目の導入

- 今後取り入れられるべき第三者評価項目、または貴校で導入予定の自己評価項目は「ない」61.6%と多い。

問18.フアッション分野において、今後取り入れられるべき第三者評価項目、または貴校で導入予定の自己評価項目はありますか。(お答えはひとつ)



## 問19.【設定した評価項目】

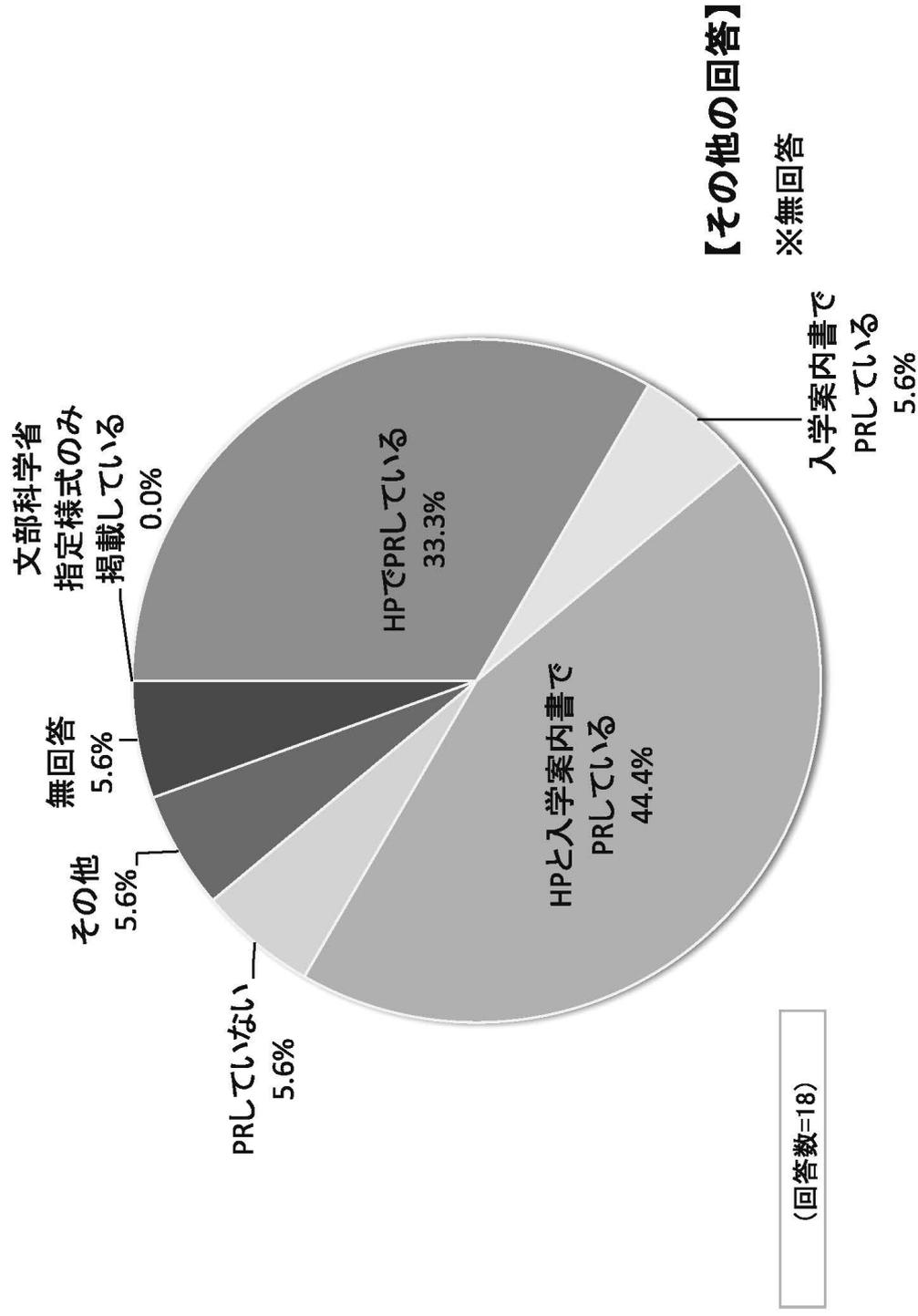
- ・フアッション分野における職業実践専門課程の質の保証の評価を推進する事業
- ・第三者評価、点検評価の導入予定
- ・検定取得率(フアッションビジネス、スタイリスト検定等)
- ・卒業時における就職率を設定
- ・フアッション分野関連の資格取得率を設定
- ・グローバルフアッション教育の実践

(回答数=18)

# 職業実践専門課程認定のPRの有無

- 職業実践専門課程に認定されたことを「HPもしくは入学案内」でPRしているのは83.3%となった。

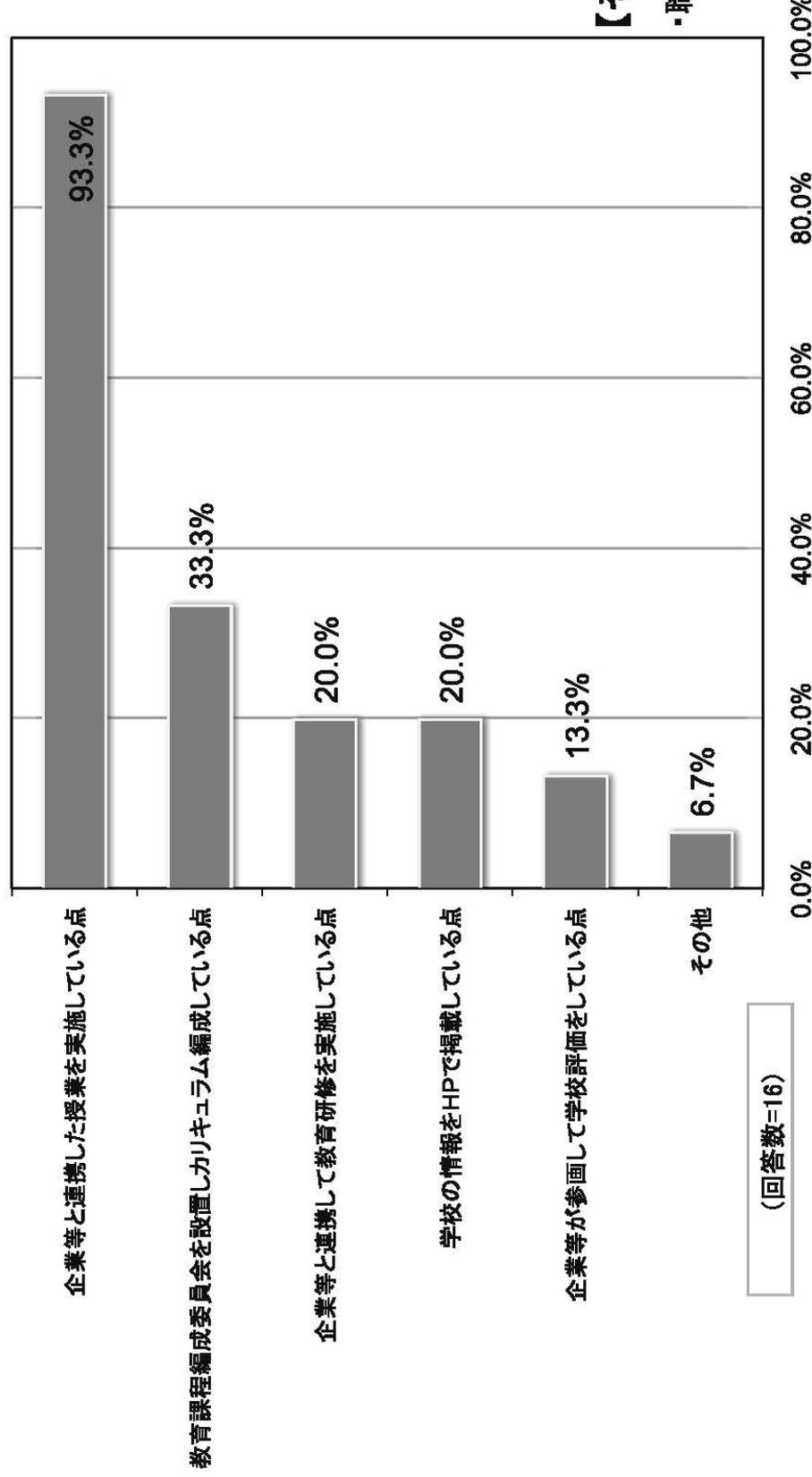
問20. 貴校のホームページや入学案内などで、職業実践専門課程に認定されたことをPRしていますか。(お答えはひとつ)



## PRしている点

- PRを行っている内容は「企業等と連携した授業を実施している点」が93.3%でトップ。ついで「教育課程編成委員会を設置しカリキュラム編成している点」(33.3%)となっている。

問21.問20で【HPでPRしている・入学案内書でPRしている・HPと入学案内書でPRしている】に○をつけた方がお答えください。  
どのような点をPRしましたか。(お答えは2つまで)



## 【その他の回答】

- 職業実践専門課程に認定された点